

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人五井節蔵の上告趣意第一点は憲法違反を主張するけれども、所論の指示書
中備考欄の記載は補強証拠となし得るものであるから、違憲の主張はその前提を欠
き採用できない（なお、被告人及び弁護人は第一審公判廷において証拠とすること
に同意している）。同第二点は判例違反を主張するけれども、被告人の所為が窃
盗の既遂に当ることは当裁判所の判例（昭和二八年（あ）第一五三三号、同年一〇
月二二日第一小法廷判決、判例集七巻一九五六頁以下参照）に照らし明らかである
から、所論は適法な上告理由に当たらない。同第三点は量刑不当の主張であつて、刑
訴四〇五条の上告理由に当たらない。また記録を調べても同四一一条を適用すべきも
のとは認められない。よつて同四一四条、三八六条一項三号により裁判官全員一致
の意見で主文のとおり決定する。

昭和二九年四月二八日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	霜	山	精	一
裁判官	栗	山		茂
裁判官	小	谷	勝	重
裁判官	藤	田	八	郎
裁判官	谷	村	唯	一 郎